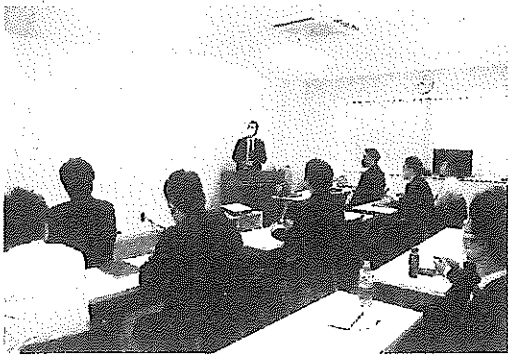


トラブル事例と対処法共有

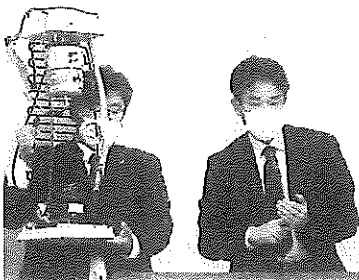
JDSA

サーバーメンテナンス講習会

日本宅配水&サーバー協会(ⅡJDSA)は12日、会員企業の都内メンテナンス工場でウォーターサーバーメンテナンス講習会を実施した。点検のポイント



講習会の模様



分解したサーバーで説明

トなどの説明に加え、工場見学も行った。講習では、ウォーターサーバーは消費者にレンタルすることが多いため、事業者が管理責任があると指摘。メンテナンスの重要性を強調した。サーバーは食品衛生法上で食品容器として位置付けられるが、

複合電気用品でもあり、実際に電気関係のトラブルもあるという。トラブル事例や対処法を共有した。

◎冷水・温水の温度不良原因は冷媒循環用のコンプレッサの故障、冷媒漏れ(ガスリーク)、ヒーターの経年劣化による故障や、配線ショート、温度調節用バイメタルの通電不良などが考えられる。

◎漏電漏電した場合、サーバー本体の金属部に触れると感電する

る。絶縁抵抗計を使い漏電のチェックが必須。

◎設置場所サーバーは室内専用設計なので、衛生上の観点から屋外に設置できない。傾斜した床に設置すると、異音を発したり転倒の危険がある。

◎水が出ない空気口のエアフィルターの目詰まりや水濡れ、水位調整用のフロートが空気をふさいでいる、冷水タンクの凍結などが原因。

◎ポットの損傷ポットルにクラック(ひび)が発生すると本体内部に水が流れ込み、あふれ出す(オーバーフロー)。講習では穴を開けたペットボトルを使った再現実験も行った。オーバーフローを防ぐためにエアフィルターにチェックバルブを取り付けてあるが、ポットル容器から空気漏れを起こしていな

いか確認が必要。

◎洗浄後の菌検査菌検査を実施すること、安心して飲める状態か確認できる。顧客に対し安全性をアピールできるメリットもある。検査基準は自社で設定する。自社で検査するか、最寄りの検査機関に依頼する。手間とコストをかけるすぎないためには、抜き取り検査が効果的。

◎Gサーバーゴキブリなど衛生害虫が入り込んだサーバーを指す。Gサーバーは廃棄する。車庫やメンテナンス点に運び込む前に、屋外や半屋外で内部を確

認し、害虫の痕跡(死骸、ふん、卵など)を発見した場合はビニール袋で全体を覆い、ほかのサーバーと混ざらないように管理する。

◎チャイルドロック幼児のやけど事故防止対策としてチャイルドロック付きコックを各社が開発。既存のサーバーも定期メンテ時

に変更できる。協会が策定した安全基準に適合したチャイルドロック付きサーバーには適合マークを表示できる。

そのほか、JDSAが策定した消費電力測定ガイドラインや、欧州で切り替えが進むノンフロン冷媒R1600aなども説明した。